



写真 開花期の名残り雪で漬れたオキナグサ

みちのく自然共生園の自然再生ボランティア活動では、東北地方らしい自然豊かな里地の自然を再生する活動を展開しています。この場所にわずかに自生していたサクラソウの保全を軸に、その生育地である半自然草原の再生に取り組んでいます。特に、サクラソウの花粉を運ぶトラマルハナバチがほとんどいないため、その生息に適した、四季折々の野草が咲く花野の再生に力を注いでいます。

●モニタリング・ガイド下見（4月7日）

- ・モニタリングでは、自然再生箇所のスイセンやヒメオドリコソウの除去、コンロンソウ周りの保護柵の設置、果樹園の防草シート敷設等を今月の優先作業としました。
- ・野辺に咲く花野まつりのための下見を行いました。オキナグサの大株がまとまって消失した箇所があり、今年はオキナグサの播種を実施することにしました。



写真 モニタリング



写真 ガイド下見 目立たないクサボケの確認

●スイセン、クローバー、ヒメオドリコソウ等の除去（4月8日、15日、4月21日）

- ・崖線樹林、居久根等のスイセンを除去しました。ウイルスに感染したスイセンも多く、同じヒガンバナ科のキツネノカミソリへの感染が懸念されます。



写真 展望野草園のヒメオドリコソウ除去



写真 崖線斜面のスイセン除去

●防草シート敷設（4月8日、15日、22日）、●コンロンソウ生育地保護柵設置（4月15日）

- ・展望野草園のツルフジバカマが密生した箇所では、土壌が富栄養になり、ヨモギなどの畑雑草が繁茂しています。そのため、防草シートを敷設して、雑草やツルフジバカマの発生をおさえ、土壌の貧栄養化を図ることにしました。果樹園の果樹周りも防草シートを敷設し、下刈頻度の縮小を図りました。



写真 防草シートの上にオギを敷設して、アレロパシーの効果も検証します。



写真 コンロンソウ保護柵設置

ガイドツアー（4月14日）、●花野塾（4月20日）、●生き物調査（4月21日）

- ・ガイドツアーは10名程の参加がありました。
- ・花野再生塾は大型イベントで共生園に入れなかったため、里山地区で実施しました。
- ・生き物調査では、モコリバ類やバッタ类等、16種が確認されました。



写真 ガイドツアー



写真 生きもの調査